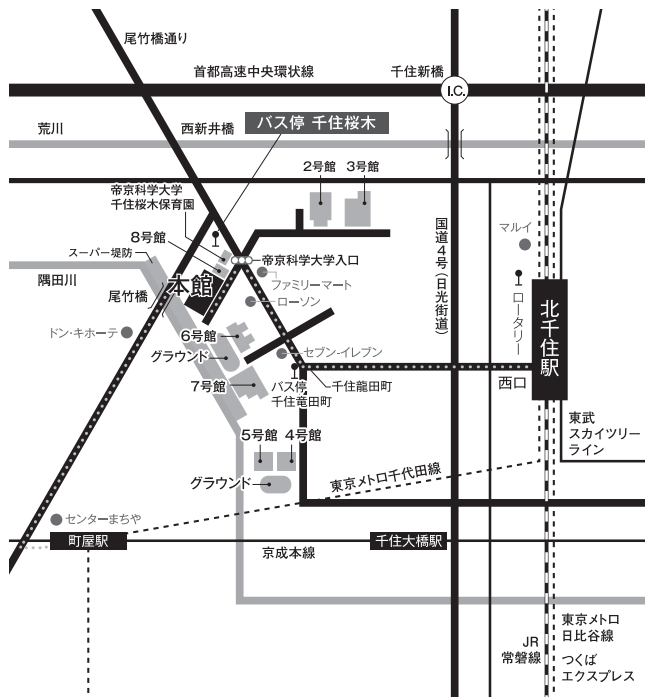


試験場案内



千住キャンパス 本館

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1

【本館】

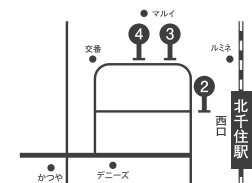
北千住駅西口からバス5分(千住桜木バス停下車 徒歩1分)

北千住駅から徒歩約20分

町屋駅からバス5分または徒歩約18分

- 〔東武バス〕 ②番乗り場 ・北01「西新井大師」行き
④番乗り場 ・北02、03「西新井大師」行き
・北04「西新井駅西口」行き
・北05「東京女子医大足立医療センター」行き
- 〔都営バス〕 ③番乗り場 ・王45「王子駅前」行き
(千住桜木バス停下車 徒歩3分)

<ロータリー案内図>



交通アクセスの
詳細はこちら▼



令和5年度

大学院 入学試験要項

一般選考

修士課程

理工学研究科

- バイオサイエンス専攻
- アニマルサイエンス専攻
- 環境マテリアル専攻

医療科学研究科

- 総合リハビリテーション学専攻
- 看護学専攻
- 柔道整復学健康ケア専攻

博士課程

理工学研究科

- 先端科学技術専攻

医療科学研究科

- 総合リハビリテーション学専攻

〔お問合せ先〕

帝京科学大学 入試・広報課 入試担当

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号

TEL：03-6910-3706（直通）
0120-248-089（フリーダイヤル）

FAX：03-6910-3802

E-mail：nyushi@ntu.ac.jp

ホームページ：https://www.ntu.ac.jp/



個人情報の取扱いについて

出願の際にお知らせいただいた個人情報（氏名、住所等）は入学案内、入学試験に付随する業務及び統計的集計を行うために利用します。

この業務の一部は、本学から当該業務の一部を委託した業者（以下「受託業者」という。）にて行うことがあります。

業務委託に当たり、個人情報の保護に関する契約を締結した受託業者に、お知らせいただいた個人情報の全部または一部を提供する用途のみの利用であり、その受託業務を超えた利用はありません。



帝京科学大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、「同機構が定める大学評価基準に適合している。」と認定されました。



帝京科学大学

▶ 建学の精神

人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。

▶ 大学の基本理念

- 1 自然に対する深い洞察力と学術に対する豊かな識見を養い、高度な専門的知識と実践的な問題解決能力を備えた人材を育成する。
- 2 人類の幸福のために、学術を適切に運用する倫理的判断力を涵養し、知情意の均整のとれた健全な人格を養成する。
- 3 深く専門の学術を研究し、その成果を地域社会に還元するとともに広く世界に発信し、人類の発展に寄与する。

目 次	
◆ 建学の精神／大学の基本理念／目次	1
◆ 令和5年度入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	2
◆ 出願資格	3
◆ 出願から入学手続までの流れ／指導を希望する教員との事前相談	4
◆ 個別の入学資格審査／受験及び修学上の特別配慮	5
◆ 出願方法／募集研究科（専攻）、募集人員／日程／入学検定料	6
◆ 初年度納入金	7
◆ 合格発表／入学手続／入学辞退手続	8
■理工学研究科 修士課程	
― バイオサイエンス専攻	
― アニマルサイエンス専攻	
― 環境マテリアル専攻	
◆ 選考方法（時間割及び試験内容）／試験場／出願書類	9
◆ 指導教員及び指導内容	10
◆ 授業科目及び担当教員	12
■理工学研究科 博士課程	
― 先端科学技術専攻	
◆ 選考方法（時間割及び試験内容）／試験場／出願書類	13
◆ 指導教員及び指導内容	14
◆ 授業科目及び担当教員	16
■医療科学研究科 修士課程	
― 総合リハビリテーション学専攻	
― 看護学専攻	
― 柔道整復学健康ケア専攻	
◆ 選考方法（時間割及び試験内容）／試験場／出願書類	17
◆ 指導教員及び指導内容	18
◆ 授業科目及び担当教員	20
◆ 授業の実施方法／長期履修制度	23
■医療科学研究科 博士課程	
― 総合リハビリテーション学専攻	
◆ 選考方法（時間割及び試験内容）／試験場	24
◆ 出願書類／指導教員及び指導内容	25
◆ 授業科目及び担当教員／授業の実施方法	26
◆ 入学試験に関する注意	27
◆ 新型コロナウイルス感染症対策に関する注意事項	29
◆ 試験場案内	31

令和5年度 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

▶ 大学院のアドミッション・ポリシー

本学の建学の精神である「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する」ことに共感し、社会に貢献したいという使命感と意欲を持ち、その上で、専攻ごとに掲げる知識と能力を持った人材を受け入れる。

理工学研究科

バイオサイエンス専攻（修士課程）

- ・生命科学に関連する微生物科学、動物科学、植物科学、分子生物学、生物化学、有機化学、医療科学等の各分野の基礎知識あるいはこれらの総合的知識を身に付けている。
- ・生物試料を取り扱う者や医療に従事する者として、学部卒業生としての倫理観を備えている。
- ・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
- ・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

アニマルサイエンス専攻（修士課程）

- ・ヒトと動物の関係及びヒトを含む動物についての科学的な基礎学力を身に付けている。
- ・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
- ・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

環境マテリアル専攻（修士課程）

- ・環境科学に関する基礎学力を身に付けている。
- ・学術情報の取得に必要な英語力を身に付けている。
- ・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

先端科学技術専攻（博士課程）

- ・自立して研究するために必要な専門知識を身に付けている。
- ・学術情報の取得と研究結果を発表するために必要な英語力を身に付けている。
- ・論理的思考力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

医療科学研究科

総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

- ・疾病の予防や健康増進、生活の支援など、地域での自立生活や社会参加の支援等に至る様々な展開に貢献しようという意欲をもった人
- ・医療及び地域の実践場面における問題発見能力や問題解決能力をはじめ、実践研究の計画、情報処理、ディスカッション、プレゼンテーション等の能力を高め、高度専門職業人並びに実践研究者としての資質を高めたいという姿勢と熱意をもった人
- ・高い倫理観と豊かな人間性をもった人

看護学専攻（修士課程）

- ・高い倫理感と豊かな人間性を有し、医療や看護の発展に貢献できる人
- ・科学的・論理的思考ができ、看護学における疑問や問題の解決に向けて研究することに強い関心をもつ人
- ・将来、看護の実践の場でリーダーとなれる資質を有し、看護学や看護実践の発展に向けて、活動する意思を有する人

柔道整復学健康ケア専攻（修士課程）

- ・柔道整復学の理論に基づく外傷の予防・改善、運動による健康ケアの増進など、臨床現場、スポーツ施設や地域の健康カルチャー室など地域の健康づくりに貢献できる人
- ・医療や地域の実践場面における問題発見能力、問題解決能力、論理性や表現力等の他、実践研究の計画、ディスカッション、プレゼンテーション等の能力を高め、高度専門職業人並びに実践研究者としての資質を高めるための能力をもった人
- ・高い倫理観と豊かな人間性をもった人

総合リハビリテーション学専攻（博士課程）

- ・科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある者
- ・大学、あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある者
- ・医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究を行うことに意欲のある者
- ・科学的エビデンスを構築し、研究開発を行うことに意欲のある者

▶ 出願資格

■ 修士課程

次の各号のいずれかに該当する者。

- 1 学校教育法に定める大学を卒業した者及び令和5年3月末日までに卒業見込みの者。
- 2 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び令和5年3月末日までに授与される見込みの者。
- 3 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和5年3月末日までに修了見込みの者。
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和5年3月末日までに修了見込みの者。
- 5 日本国内において、外国の大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者及び令和5年3月末日までに修了見込みの者。
※文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定外国大学日本校」をご参照ください。
- 6 文部科学大臣の指定した専修学校の専門課程(文部科学大臣指定専修学校専門課程)を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和5年3月末日までに修了見込みの者。
※文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧」をご参照ください。
- 7 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者。
- 8 文部科学大臣の指定した者。
- 9 学校教育法の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本学大学院において、その教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。
- 10 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた22歳以上の者。

※上記1～10の他、総合リハビリテーション学専攻のみ次の資格が認められます。

- 11 短期大学又は専門学校(修業年限3年以下)を卒業し、2年以上の社会経験を持ち、本大学院において個別の入学資格審査により認められた者。

■ 博士課程

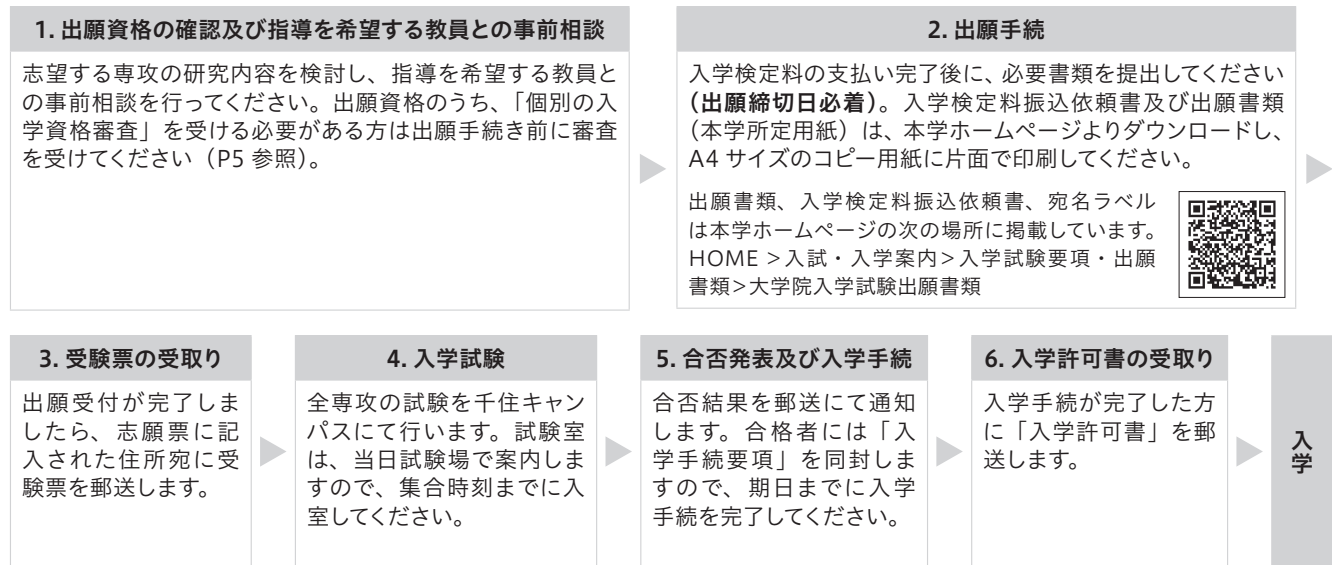
次の各号のいずれかに該当する者。

- 1 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和5年3月末日までに取得見込みの者。
- 2 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和5年3月末日までに授与される見込みの者。
- 3 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和5年3月末日までに授与される見込みの者。
- 4 日本国内において、外国の大学院相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学(大学院相当)日本校)を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和5年3月末日までに授与される見込みの者。
※文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定外国大学(大学院相当)日本校」をご参照ください。
- 5 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者。
- 6 文部科学大臣の指定した者。
- 7 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた24歳以上の者。

« 注意事項 »

- (1) 出願に際しては、出願資格に関わらず研究指導を希望する教員との事前相談が必要です。
- (2) 次の事項に該当する方は出願開始日の1か月前までに入試担当へご連絡ください。
修士課程: 出願資格の7又は8によって出願しようとする方
博士課程: 出願資格の3、4、5、6によって出願しようとする方
- (3) 次の事項に該当する方は、指導を希望する教員との事前相談後に「個別の入学資格審査」を行い、認められた場合に限り出願できます。
修士課程: 出願資格の9、10、11によって出願しようとする方
博士課程: 出願資格の7によって出願しようとする方
- (4) 社会人選考又は外国人留学生選考に出願しようとする場合は、出願開始日の2週間前までに入試担当へご連絡ください。

▶ 出願から入学手続までの流れ



▶ 指導を希望する教員との事前相談

出願を希望する方は、学外出身者・学内出身者(在学中も含む)を問わず、出願に先立ち指導を希望する教員と入学後の研究・教育について事前相談を必ず実施してください。詳細は以下の内容をご確認ください。なお、個別の入学資格審査に該当する方はP5を確認のうえ、諸手続を行ってください。

- 1 事前相談の対象者
本学大学院(修士課程及び博士課程)を出願しようとする方。
※学外出身者・学内出身者の身分に関わらず、全ての方が対象です。
- 2 実施専攻
修士課程: 理工学研究科(各専攻)、医療科学研究科(各専攻)
博士課程: 理工学研究科(先端科学技術専攻)、医療科学研究科(総合リハビリテーション学専攻)
- 3 実施入学試験区分
大学院入学試験(Ⅰ期・Ⅱ期)

4 事前相談の実施期間

入学試験区分	事前相談実施期間
Ⅰ期	令和4年8月29日(月)までに済ませてください
Ⅱ期	令和5年2月20日(月)までに済ませてください

5 事前相談から出願までの流れ

- (1) 指導を希望する教員を選択する
各専攻(領域)の「指導教員及び指導内容」を参照し、指導教員名の先頭に○印が付されている教員から指導を希望する教員を選択してください。
- (2) 事前相談をメールで申し込む
宛先: nyushi@ntu.ac.jp
件名: 「大学院事前相談希望」
記載事項: ①氏名(カナ) ②経歴(高等学校以上の学歴、職歴) ③志望する研究科名称、課程(修士・博士課程)、専攻(領域)名称 ④希望する研究分野 ⑤指導を希望する教員名 ⑥連絡先(電話番号、メールアドレス)
- (3) 担当教員又は入試担当から事前相談日程の通知を受ける
- (4) 指定された日程で事前相談を行う
- (5) 入試担当から事前相談結果について電話で通知を受ける
- (6) 事前相談結果を受けてから、出願手続を行う

▶ 個別の入学資格審査

「個別の入学資格審査」に該当する方は、申請期間前に入試担当へ問い合わせ、提出書類を入手し、以下の内容を確認のうえ、申請期間内に必要書類を提出してください。

- 1 個別審査の対象者
修士課程：P3出願資格の9、10、11によって出願しようとする方で、令和5年3月31日までに22歳に達する方。
博士課程：P3出願資格の7によって出願しようとする方で、令和5年3月31日までに24歳に達する方。
- 2 実施専攻
修士課程：理工学研究科（各専攻）、医療科学研究科（各専攻）
博士課程：理工学研究科（先端科学技術専攻）、医療科学研究科（総合リハビリテーション学専攻）
- 3 実施入学試験区分
大学院入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- 4 入学資格審査申請期間及び審査結果通知

区分	入学資格審査申請期間（締切日必着）	審査結果通知日※
第一次	令和4年7月11日（月）～令和4年7月20日（水）	令和4年8月18日（木）までに通知
第二次	令和5年1月 4日（水）～令和5年1月13日（金）	令和5年2月 9日（木）までに通知

※審査結果は、本人宛に郵送にて通知します。本学への入学資格を認められた方は、各研究科ページに記載のある出願書類（卒業証明書・成績証明書を除く。）を取り揃え、「入学資格認定書」のコピーを添付し、出願手続きに従い提出してください。

5 入学資格審査に必要な提出書類

必要書類	注意事項
入学資格審査申請書（本学所定用紙）	申請期間前に入試担当へ連絡し、各書類を入手してください。
大学院進学希望理由書（本学所定用紙）	
生年月日を証明する書類	住民票の写し等
卒業（修了）証明書	既修得単位数を証明できるものであり、令和4年4月1日以降に最終学歴校の学校長等が作成・証明し、厳封したもの。
成績証明書	
学習歴や、実社会での実務経験・取得した資格等を証明する書類	学習歴、在職期間、勤務日数や取得資格名称及びスコアが分かるもの。

注）外国語で作成されている書類については、公的機関や翻訳会社等が発行する日本語の翻訳（原本）を必ず提出してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は、申請を受け付けません。

※上記書類以外に本学で必要と認めた書類を提出していただく場合があります。該当者には本学から連絡をします。

- 6 提出先
角形2号封筒を使用し、「入学資格審査書類在中」と明記のうえ郵送してください。

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号 帝京科学大学 入試・広報課 入試担当

持参される場合は、千住キャンパスのみで受け付けます。（窓口受付時間等にご注意ください。）
窓口受付時間：平日9時～16時、土曜日9時～12時
※日曜、祝日、年末年始（12月28日（水）～1月4日（水））は事務の取扱いを行いません。

▶ 受験及び修学上の特別配慮

本学では、障がいのある学生が学び続けられるよう、出願前に受験時の特別な配慮と入学後の具体的な支援体制について面談のうえ、説明をさせていただいております。障がいがあり、受験時の特別な配慮及び入学後の修学支援を希望される方は、遅くとも出願を希望する入学試験の**出願開始日1か月前まで**に本学入試担当（TEL：03-6910-3706）までお問合せください。本学の対応が決定次第、出願していただきます。また、不慮の事故等により、出願後に特別な配慮が必要となった場合も速やかにご連絡ください。なお、ご相談なしに受験・入学された場合は、修学支援がご希望に添えない場合もありますので、必ず相談をお受けくださいますようお願いいたします。

▶ 出願方法

- (1) 出願書類と同様に宛名ラベルを本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に片面印刷をしてください。
- (2) 出願書類は、入学検定料支払い完了後に提出してください。
- (3) 市販の角形2号封筒を用意し、印刷した宛名ラベルを貼付し、出願書類を一括して封筒に入れて提出してください。
- (4) 提出方法（**出願締切日必着**）

① 郵送による出願
最寄りの郵便局から簡易書留速達郵便で郵送してください。

② 千住キャンパスへ直接来学しての出願（窓口受付時間等にご注意ください。）
- (5) 提出先
帝京科学大学 入試・広報課 入試担当（千住キャンパス本館4階 入試センター）
〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号
電話：03-6910-3706（入試担当直通）
窓口受付時間：平日9時～16時、土曜9時～12時
※日曜、祝日、年末年始（12月28日（水）～1月4日（水））は事務の取扱いを行いません。

《注意事項》

- ① 出願書類は、各研究科（課程）のページを確認してください。
- ② 出願書類に不備等がある場合及び出願期間外の出願は受け付けません。
- ③ 提出した出願書類及び入学検定料は、原則として返還しません。
- ④ 出願後は、いかなる理由があっても書類の変更は認めません。
- ⑤ 入学決定後でも、提出書類の記載に事実と相違する内容が発見された場合には、入学許可を取り消すことがあります。
- ⑥ 入学検定料は出願期間内にお支払いください。

▶ 募集研究科（専攻）、募集人員

課程	理工学研究科	医療科学研究科
修士課程	バイオサイエンス専攻 15名	総合リハビリテーション学専攻 3名
	アニマルサイエンス専攻 15名	看護学専攻 3名
	環境マテリアル専攻 15名	柔道整復学健康ケア専攻 3名
博士課程	先端科学技術専攻 8名	総合リハビリテーション学専攻 2名

※募集人員の一部については、本学卒業予定者等から別途選考することがあります。

▶ 日程

区分	出願期間（締切日必着）	選考試験日	合格発表日	入学手続締切日
Ⅰ期	令和4年9月 5日（月）～9月 9日（金）	令和4年9月16日（金）	令和4年9月22日（木）	令和4年9月29日（木）
Ⅱ期	令和5年2月27日（月）～3月 3日（金）	令和5年3月 9日（木）	令和5年3月16日（木）	令和5年3月23日（木）

▶ 入学検定料

- ① 入学検定料は35,000円です。
- ② 入学検定料振込依頼書は出願書類と同様に「入学検定料振込依頼書」を本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に縮小及び拡大等を行わず、片面印刷をしてください。整理番号（入学検定料振込依頼書上部に記載された入学試験区分・志望専攻ごとの番号）、振込依頼者情報等の必要事項を記入し、金融機関窓口でお支払いください。なお、印刷が適当でないと、金融機関窓口で受付できないことがあります。印刷した振込依頼書が使用できない場合は、金融機関に備え付けの振込依頼書を用いて、所定の事項を転記のうえ、お支払いください。転記の際は、必ず氏名（カタカナ）の先頭に整理番号を明記してください。
- ③ 振込金領収書は志願者本人控えとなりますので、お手元で保管してください。
- ④ 出願期間内にお支払いください。
- ⑤ 支払われた入学検定料は、原則として返還しません。

▶ 初年度納入金（手続時と後期分納入金額を合計した金額です）

金額単位：円

研究科	課程	専攻・領域		出身種別	入学金 (入学時のみ)	授業料 年額 (半期分)	実験実習費 年額 (半期分)	施設設備費 年額 (半期分)	学生傷害 保険料 [※] (入学時のみ)	合計金額
理工学研究科	修士	バイオサイエンス専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	2,430	手続時： 917,430 後期分： 605,000 年 額：1,522,430
				学内	210,000					手続時： 817,430 後期分： 605,000 年 額：1,422,430
		アニマルサイエンス専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	3,380	手続時： 918,380 後期分： 605,000 年 額：1,523,380
				学内	210,000					手続時： 818,380 後期分： 605,000 年 額：1,423,380
		環境マテリアル専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	2,430	手続時： 917,430 後期分： 605,000 年 額：1,522,430
				学内	210,000					手続時： 817,430 後期分： 605,000 年 額：1,422,430
	博士	先端科学技術 専攻	バイオサイエンス 領域	学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	3,620	手続時： 918,620 後期分： 605,000 年 額：1,523,620
				学内	免除					手続時： 608,620 後期分： 605,000 年 額：1,213,620
			アニマルサイエンス 領域	学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	4,930	手続時： 919,930 後期分： 605,000 年 額：1,524,930
				学内	免除					手続時： 609,930 後期分： 605,000 年 額：1,214,930
			環境マテリアル 領域	学外	310,000	800,000 (400,000)	170,000 (85,000)	240,000 (120,000)	3,620	手続時： 918,620 後期分： 605,000 年 額：1,523,620
				学内	免除					手続時： 608,620 後期分： 605,000 年 額：1,213,620
医療科学研究科	修士	総合リハビリテーション学専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	—	240,000 (120,000)	1,790	手続時： 831,790 後期分： 520,000 年 額：1,351,790
				学内	210,000					手続時： 731,790 後期分： 520,000 年 額：1,251,790
		看護学専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	—	40,000 (20,000)	1,790	手続時： 731,790 後期分： 420,000 年 額：1,151,790
				学内	210,000					手続時： 631,790 後期分： 420,000 年 額：1,051,790
		柔道整復学健康ケア専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	—	40,000 (20,000)	1,790	手続時： 731,790 後期分： 420,000 年 額：1,151,790
				学内	210,000					手続時： 631,790 後期分： 420,000 年 額：1,051,790
	博士	総合リハビリテーション学専攻		学外	310,000	800,000 (400,000)	—	140,000 (70,000)	2,650	手続時： 782,650 後期分： 470,000 年 額：1,252,650
				学内	免除					手続時： 472,650 後期分： 470,000 年 額： 942,650

※学生傷害保険料は、変更となる場合があります。

- ・手続時納入金額は、合格された際に、各入試区分の入学手続締切日までに納入が必要な金額です。なお、金額の内訳は、授業料・実験実習費・施設設備費の半期分と入学金・学生傷害保険料です。
- ・後期分納入金額は、入学年度の9月頃に口座引き落としでの納入となります。口座引き落としの手続等、詳細は入学後に案内します。なお、金額の内訳は、授業料・実験実習費・施設設備費の半期分です。
- ・初年度納入金額は、入学年次に必要な1年間の合計金額です。なお、この他に図書購入費用等がかかります。

▶ 合格発表

- (1) 合格発表日に、受験者全員に受験票を送付した宛先に本人宛で、合否結果を郵便にて通知します（学内掲示による発表は行いません。）。なお、入学試験を欠席した場合、合否結果の郵送はいたしません。
- (2) 合格者には合格発表日に、入学手続書類等を郵送します。
※窓口、電話、郵送等による合否結果の照会に関するお問い合わせには、一切応じません。
※合否に関するお問い合わせには、一切応じません。

▶ 入学手続

- (1) 手続方法
合格者には、合否結果と一緒に「入学手続要項」を送付しますので確認のうえ、入学手続きを行ってください。
① 入学金及び授業料等の納入
本学所定の振込依頼書を使用し、最寄りの金融機関から入学手続締切日までに振り込んでください。
入学手続締切日までに手続を完了しない場合は、入学の意志がないものとみなし、合格を取り消します。
② 書類提出（誓約書、卒業（修了）証明書）
入学手続締切日までに誓約書等の提出が必要です。提出書類の詳細については、「入学手続要項」においてご案内します。
- (2) 入学手続締切日

区分	入学金及び授業料等の納入期日	書類提出期日
I 期	【納入金分納制】 [※] 一次締切日：令和4年9月29日（木） 二次締切日：令和5年2月10日（金）	令和4年9月29日（木）
II 期	令和5年3月23日（木）	令和5年3月23日（木）

- ※大学院入学試験（I 期）の修士課程及び博士課程合格者に限り、納入金分納制度があります。
一次締切日[令和4年9月29日（木）]までに入学金を納入し、二次締切日[令和5年2月10日（金）]までに残額（入学金を除いた手続時納入金額）を納入することができます。**ただし、一次締切日までに入学金の納入及び書類提出を完了しない場合は、入学の意思がないものとみなし、合格を取り消します。また、二次締切日までに残額の納入を完了しない場合についても入学の意思がないものとみなし、合格を取り消すとともに、入学金は返還しません。**
(3) 一旦受理した授業料等は、原則として返還しません。

▶ 入学辞退手続

入学手続きを完了した方で、入学を辞退する場合は、令和5年3月31日（金）15時までに入試担当へ電話連絡し、入学辞退を申し出てください。その時点をもって入学辞退が確定します。後日、本学から送付する「入学辞退届」に必要事項を記入し、「入学許可書」とともに返送してください。返送された書類を本学で確認した後、納入済の金額のうち入学金を除く金額を返還します。なお、上記期日を過ぎての入学辞退申出については、納入金を返還しません。

1 選考方法(時間割及び試験内容)

(1) 一般選考

筆記試験(英語、専門科目)、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。

時間	試験内容等	
9:00 ～ 9:30	集合時間	9:30までに着席してください。
9:45 ～ 10:00	受験上の注意	筆記試験の注意事項を説明します。
10:00 ～ 11:00	英語	大学学部卒業程度で出題します。※大学から辞書を貸与します。
11:20 ～ 12:50	専門科目	各専攻において共通の基礎的科目及び志望する研究分野に応じた出題をします。
13:20 ～ 13:30	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:30 ～	面接	各専攻において志望する研究分野を中心に、15分程度の面接を行います。

(2) 社会人選考及び外国人留学生選考

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人(各種の研究機関、教育機関又は企業等に1年以上勤務する方で入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた方)及び外国人留学生(日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である方)の選考は、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。

時間	試験内容等	
12:45 ～ 13:15	集合時間	13:15までに着席してください。
13:20 ～ 13:30	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:30 ～	面接	各専攻において志望する研究分野を中心に、15分程度の面接を行います。

2 試験場

千住キャンパス ※案内図はP31をご確認ください。

3 出願書類

以下の書類をそろえて出願期間内に提出してください。なお、原則として、提出された書類は返却しません。また、各書類を手書きする場合はボールペン(消せるボールペンは不可)で記入してください。

○:必須 △:該当者のみ

出願書類			注意事項等
A	志願票 (本学所定用紙)	○	必要事項を記入のうえ、出願前3か月以内に撮影したカラー写真(縦4cm×横3cm、正面上半身、無帽、無背景のもの)裏面に志望専攻名及び氏名を明記し、所定欄に貼付してください。
B	卒業(見込)証明書	○	令和4年4月1日以降に最終学歴校の学長等が作成・証明し、厳封したもの ※外国の大学・大学院を卒業(修了)した方は、学位取得証明書(原本)も併せて提出してください。
C	成績証明書	○	※編・転入学により入学し、大学を卒業(見込み)の方は、それ以前の大学等の成績証明書及び在籍期間を証明する書類も併せて提出してください。
D	学位授与取得証明書	△	出願資格2に該当する場合 ※授与される見込みの方については、授与後速やかに提出してください。
E	志望理由書 (本学所定用紙)	○	志望理由及び将来の研究に対する希望について400字程度にまとめたもの
F	受験承諾書 (本学所定用紙)	△	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を提出してください。
G	住民票の写し	△	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください(日本の在留資格「永住者」「定住者」を除く)。
H	入学資格認定書の コピー	△	個別の入学資格審査により本学への入学資格を認められた方は入学資格認定書のコピー(A4サイズ)を提出してください。

《出願書類に関する注意事項》

- 出願書類については、本学所定用紙を本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に片面印刷をしてください。また、印刷時のページサイズの設定では、縮小拡大を行わず、実際のサイズで印刷してください。
- 証明書の氏名が出願時と異なる場合(旧姓等)、戸籍抄本(戸籍個人事項証明書)を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳(原本)を必ず提出してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は受理できません。
- 出身学校が発行する書類で原本が1通しか発行されない場合は、「原本」又は「原本から正しく複製されたもの(Certified true copy)」であることの証明を出身学校から受けたもの」を提出してください。
- 出願書類は、入学検定料支払い完了後に提出してください。

出願書類、入学検定料振込依頼書、宛名ラベルは本学ホームページの次の場所に掲載しています。
HOME > 入試・入学案内> 入学試験要項・出願書類> 大学院入学試験 出願書類



4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

専攻	分野	指導教員		研究指導内容
バイオサイエンス	生物工学	○教授	松岡 浩	・ラムノリピッドなどの天然界面活性剤の微生物生産における生産性向上 ・タケなどの植物性天然物からの有用物質生産の生産性向上
		○教授	佐野 友彦	・界面活性剤の会合体の特性、構造に関する研究 ・物理的、化学的手法による薬物の経皮吸収促進に関する研究
		○教授	柴田 安司	魚類における生殖細胞の形成と性分化の分子メカニズムの解明。卵母細胞における成熟能および受精能獲得の分子メカニズムの解明。
		准教授	上野 良平	酵母と微細藻をモデルとして、真核細胞の長寿命・若返りに貢献する物質や、新機能RNAの探索を行う。富士山微生物の収集・性状解析と利用を行う。
		○講師	山田 秀俊	健康で長生きする方法について考えるため、三大栄養素の一つである脂質に着目し「脂質の生理機能と作用メカニズム」の研究。
	生体機能学	○教授	東 克己	植物生理学的・分子生物学的・遺伝学的なアプローチによる、植物の胚発生過程を中心とする発生現象、様々な刺激に対する応答機構の解明。
		講師	西川 翔	食品成分による抗肥満・抗糖尿病作用等の健康機能性を、実験動物やモデル細胞を用いて解明し、サプリメント等の機能性食品開発を目指す。
	生物有機化学	○教授	高谷 光	生体分子を基盤とした機能性有機分子の創出。再生可能な生物由来資源を利用して、持続可能な人類の発展に資する革新的な触媒や材料の開発を目指す。
		○教授	岩瀬 礼子	核酸医薬を志向した化学修飾オリゴヌクレオチドの合成と遺伝子発現制御機能の解明。標的RNAを蛍光検出可能な新規修飾核酸の合成と機能性の解明。
	医療科学	○教授	永沼 充	人とロボットの相互作用に関する解析とネットワーク応用。
		○教授	内田 恭敬	機械学習を用いた下肢生体情報システムの高性能化に向けた聴音や血流速度および歩行パターン分析、血液体外循環装置の予知保全などに関する研究。
		○教授	斉藤 幸喜	医療およびヘルスケア領域におけるデータサイエンス・機械学習に関する研究。特に、ディープラーニングを用いた医療データの解析に関する研究。
		○教授	昇 寛	リハビリテーション領域における身体機能測定器や身体運動器の開発と応用を中心とした研究や、運動学習や教育効果の評価方法についての研究。
		○准教授	堀 和芳	・人工臓器デバイスにおける生体適合性、抗血栓性や性能評価の研究 ・抗血栓性ポリマーを開発する研究
アニマルサイエンス	人間動物関係科学	○教授	井腰 圭介	共生文化論では、ヒトを含む多様な生物の共生の条件の歴史的変遷と意味を、知識と行動の体系である人間の文化の側面から社会学的に研究する。
		○教授	花園 誠	ヒトと動物の共生に観点を置いた動物活用方法の研究。特に動物福祉を基盤とした動物介在システムの開発とその実用化に関する研究。
		○教授	並木 美砂子	動物を飼育するという、人類に特異的な行為と文化的背景について、野生生物保全の観点から評価・考察し、これからの新たな動物と人の関係構築を探究する。
		○教授	濱野 佐代子	人間と伴侶動物の関係について、心理学・獣医学的な観点から解明する。それを踏まえて、人間と伴侶動物の双方のウェルビーイングを探究する。
		教授	古瀬 浩史	環境教育、および自然公園や遺産地域等におけるインタープリテーションの計画・手法の開発・評価・人材育成等に関する実践的な研究。
		○准教授	木場 有紀	動物と人間との関係について、特に子どもとの関係を主な対象として、動物福祉の保障を前提とした動物介在教育に関する研究を行う。
		講師	山本 真理子	医療や福祉等の場面に応用される動物(セラピーアニマル、補助犬)が、人・社会にもたらす影響を明らかにし、人と動物のより良い共生社会を考察する。
		講師	佐渡友 陽一	日本の動物園のあり方と改善方法について博物館学の観点から模索・実施するとともに、動物観を軸として人と動物の関係について探究する。

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

専攻	分野	指導教員	研究指導内容
アニマルサイエンス	動物看護福祉科学	○教授 彦野 弘一	動物の感染症にかかわる微生物の病原性及び免疫応答を解明し、これらの基礎的知見に基づいて動物感染症の診断および予防法を開発する。
		教授 小林 豊和	・伴侶動物の健康寿命を延伸する研究 ・動物における抗加齢医療に関する研究
		教授 山本 和弘	獣医感染症学、獣医疫学を背景にアニマルシェルターメディシン分野を研究し、さらに災害獣医療や高齢動物の配慮を行い、「人と動物の共生」を目指す。
		○准教授 加隈 良枝	動物福祉および伴侶動物の問題行動に関して、行動学的・生理学的・社会学的手法により解明し、動物の適正な飼育法および管理技術を探究する。
		講師 戸澤 あきつ	主に産業動物および展示動物の飼育における動物福祉学的問題点について、行動学的・生理学的アプローチにより把握し、適正な飼育・管理技術を探究する。
	動物基礎科学	○教授 森 貴久	動物の個体レベル以上で観察される生物学的な特徴の特に機能とメカニズムについて、行動学的・生態学的・進化学的な観点から解明する。
		○教授 近藤 保彦	動物の生殖行動、社会行動における化学感覚コミュニケーションの神経内分泌メカニズムを生理学・形態学・分子生物学的技法を用いて解析する。
		○教授 藪田 慎司	動物の信号行動の機能と動機づけメカニズムの研究を行う。また、イヌの探索・遊び・あいさつ、ドッグトレーナーとの相互行為などの研究を行う。
		○准教授 島田 将喜	長期のフィールドワークに基づき、野生動物の遊び行動・社会ネットワークを明らかにし、その発達上・進化上の重要性を探究する。
		○准教授 小出 哲也	感覚神経系の働きを通して、動物の生態を理解します。ゼブラフィッシュ、深海魚リュウグウノツカイなどの多様な魚類を中心に研究を進める。
		講師 今野 晃嗣	・伴侶動物の社会認知能力に関する実験心理学的研究 ・伴侶動物の行動を支える遺伝的基盤に関する研究
	エコマテリアル	○教授 釘田 強志	規則性シリカ多孔体や球状有機高分子への有機分子触媒の固定化と高選択性固体触媒の開発、ならびにそれらを用いた化学工業プロセスのグリーン化。
		○准教授 辻本 敬	再生可能なバイオマスを出発物質に用いた機能性高分子材料の開発、高分子の環境調和型製造プロセスに関する研究、相分離を利用した高分子多孔体の創製。
		○准教授 石井 あゆみ	太陽光における見えない光エネルギー（微弱光・近赤外光・偏光）の検出とエネルギー変換を可能とする有機無機ハイブリッド材料およびデバイスの開発。
		講師 山際 清史	炭素ナノ材料などの無機系材料の新規合成法の確立と電池材料への応用に関する研究、水質評価などの環境モニタリングのための化学センサ材料の開発。
環境マテリアル	環境科学	○教授 渡邊 浩一郎	環境ストレスに適応した植物の機能解明と環境修復への利用に関する研究。特に好塩性植物の栄養生理学的研究、植物のリン栄養に関する研究。
		○教授 橋本 慎治	絶滅危惧種や外来種の食性や生活史を解明する生態系保全に関する研究、及び東京湾やその流域の河川・湖沼における水質を解明する環境保全に関する研究。
		○教授 篠原 正典	行動観察および遺伝的解析による野生動物の基礎生態に関する研究。また、それらを通じた人と動物の関係や生物保全に関しての研究。
		○教授 和田 龍一	微量な大気汚染物質を計測可能な分析装置を開発し、森林・山岳および都市におけるフィールド観測に応用することで、大気環境を明らかにする研究。
		准教授 下岡 ゆき子	野生動物の生態・行動・社会をフィールドワークの手法を通して明らかにし、地域間比較および種間比較を通してその進化過程を明らかにする研究。
		准教授 森長 真一	植物と動物における送粉・被食相互作用、環境変動に対する植物の進化的・生態的応答、植物における局所適応の遺伝的基盤に関する研究。
	動物看護福祉科学		

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

専攻	分野	授業科目	担当教員
アニマルサイエンス	生物工学	バイオプロセス工学特論Ⅰ バイオプロセス工学特論Ⅱ	教授 松岡 浩
		食品科学特論Ⅰ 食品科学特論Ⅱ	講師 山田 秀俊
		分子生物学特論Ⅰ 分子生物学特論Ⅱ	教授 柴田 安司
		微生物学特論	准教授 上野 良平
		製剤学特論	教授 佐野 友彦
	生体機能学	生体反応特論	講師 西川 翔
		植物組織培養学特論Ⅰ 植物組織培養学特論Ⅱ	教授 東 克己
	生物有機化学	生物有機化学特論Ⅰ 生物有機化学特論Ⅱ	教授 高谷 光
		遺伝子化学特論Ⅰ 遺伝子化学特論Ⅱ	教授 岩瀬 礼子
	医療科学	神経科学特論	教授 萩原 宏毅
		リハビリテーション科学特論	教授 昇 寛
		共生ロボット工学特論	教授 永沼 充
		生体信号処理特論 センサ工学特論	教授 内田 恭敬
		医療情報処理特論	教授 斉藤 幸喜
		生体材料工学特論	准教授 堀 和芳
	共通	バイオサイエンス輪講第一 バイオサイエンス輪講第二 バイオサイエンス輪講第三 バイオサイエンス輪講第四 バイオサイエンス特別実験第一 バイオサイエンス特別実験第二	各教員
	動物看護福祉科学	代謝生理学特論	教授 小林 豊和
		動物看護学特論	教授 山本 和弘
		動物福祉特論	講師 戸澤 あきつ
		動物保健衛生学特論	教授 彦野 弘一
		臨床動物行動学特論	准教授 加隈 良枝
	動物基礎科学	動物行動生理学特論	講師 今野 晃嗣
		動物行動神経科学特論	教授 近藤 保彦 准教授 小出 哲也
		動物行動学特論	教授 藪田 慎司
		動物行動生態学	教授 森 貴久
		陸生哺乳類学特論	准教授 島田 将喜
		水生哺乳類学特論	未定
		社会行動と生物学	教授 藪田 慎司
		動物基礎科学特殊講義	未定

専攻	分野	授業科目	担当教員
アニマルサイエンス	人間動物関係科学	環境教育特論	教授 古瀬 浩史
		動物園動物学	講師 佐渡友 陽一
		動物介在介入Ⅰ	教授 花園 誠
			講師 山本 真理子
		動物介在介入Ⅱ	教授 濱野 佐代子
			准教授 木場 有紀
		共生文化論	教授 井腰 圭介
	共通	動物科学特論一 動物科学特論二 アニマルサイエンス輪講第一 アニマルサイエンス輪講第二 アニマルサイエンス輪講第三 アニマルサイエンス輪講第四 アニマルサイエンス特別実験第一 アニマルサイエンス特別実験第二	各教員
	環境科学	環境物理化学特論	准教授 石井 あゆみ
		環境有機化学特論	教授 釘田 強志
		環境無機化学特論	講師 山際 清史
		環境分析学特論 大気環境学特論	教授 和田 龍一
	環境機能材料	分光光学特論	准教授 石井 あゆみ
		機能性分子特論	准教授 辻本 敬
		クリーンエネルギー特論	講師 山際 清史
	環境マテリアル	環境共生学特論 生物間相互作用学特論	准教授 森長 真一
		植物環境生理学特論 植物代謝機能学特論	教授 渡邊 浩一郎
		環境野生動物学特論 保全遺伝学特論	教授 篠原 正典
		物質循環生態学特論 水圏環境生態学特論	教授 橋本 慎治
		環境生態学特論 人類学特論	准教授 下岡 ゆき子
	共通	環境マテリアル輪講第一 環境マテリアル輪講第二 環境マテリアル輪講第三 環境マテリアル輪講第四 環境マテリアル特別実験第一 環境マテリアル特別実験第二	各教員

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

1 選考方法(時間割及び試験内容)

(1) 一般選考

筆記試験(英語)、口述試験・面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。ただし、本学において、令和5年3月に修士課程を修了見込みの方は、学力試験を免除します。

時間	試験内容等	
9:00 ～ 9:30	集合時間	9:30までに着席してください。
9:45 ～ 10:00	受験上の注意	筆記試験の注意事項を説明します。
10:00 ～ 11:00	英語	大学から辞書を貸与します。
13:20 ～ 13:30	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:30 ～	口述試験・面接	修士学位論文あるいはこれまでの研究内容等について、発表と質疑応答、博士課程における研究概要等について、30分程度の口述試験・面接を行います。

(2) 社会人選考及び外国人留学生選考

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人(各種の研究機関、教育機関又は企業等に2年以上勤務する技術者又は研究者で入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた方)及び外国人留学生(日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である方)の選考は、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。

時間	試験内容等	
12:45 ～ 13:15	集合時間	13:15までに着席してください。
13:20 ～ 13:30	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:30 ～	面接	志望する研究内容等の他、提出された研究計画書等について、30分程度の面接を行います。

2 試験場

千住キャンパス ※案内図はP31をご確認ください。

3 出願書類

以下の書類をそろえて出願期間内に提出してください。なお、原則として、提出された書類は返却しません。また、各書類を手書きする場合はボールペン(消せるボールペンは不可)で記入してください。

出願書類			注意事項等
A	志願票 (本学所定用紙)	○	必要事項を記入のうえ、出願前3か月以内に撮影したカラー写真(縦4cm×横3cm、正面上半身、無帽、無背景のもの)の裏面に志望領域名及び氏名を明記し、所定欄に貼付してください。
B	卒業証明書及び修了(見込)証明書	○	令和4年4月1日以降に出身大学及び大学院の学長等が作成・証明し、厳封したもの ※外国の大学・大学院を卒業(修了)した方は、学位取得証明書(原本)も併せて提出してください。
C	成績証明書	○	① 出願資格1により出願する方:学部及び大学院修士課程の成績証明書 ② 出願資格2、3、4、5により出願する方:当該教育課程の成績証明書 ③ 出願資格6、7により出願する方:最終出身大学等の成績証明書 ※上記①、②、③は、令和4年4月1日以降に出身大学長等が作成・証明し、厳封したもの ※編・転入学により入学し、大学を卒業(見込み)の方は、それ以前の大学等の成績証明書及び在籍期間を証明する書類も併せて提出してください。
D	学位授与取得証明書	△	出願資格2に該当する場合 ※授与される見込みの方については、授与後速やかに提出してください。
E	志望理由書 (本学所定用紙)	○	志望理由及び将来の研究に対する希望について400字程度にまとめたもの

○:必須 △:該当者のみ

出願書類			注意事項等
F	・修士学位論文の写し ・修士学位論文要旨(本学所定用紙) ・研究経過報告書(本学所定用紙)	○	① 修士の学位論文を提出した方は、修士学位論文の写し及び修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ② 令和5年3月に修士課程修了見込みの方は、修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ※上記に加えて公表論文・研究業績がある場合は、論文等の写し及び研究業績調書(本学所定用紙)を提出してください。 ③ 上記①、②以外の方は、研究経過報告書(本学所定用紙)を提出してください。
G	研究計画書(本学所定用紙)	○	400字程度にまとめたもの
H	受験承諾書(本学所定用紙)	△	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を提出してください。
I	住民票の写し	△	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください(日本の在留資格「永住者」「定住者」を除く)。
J	入学資格認定書のコピー	△	個別の入学資格審査により本学への入学資格を認められた方は入学資格認定書のコピー(A4サイズ)を提出してください。

◀出願書類に関する注意事項▶

- 出願書類については、本学所定用紙を本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に片面印刷をしてください。また、印刷時のページサイズの設定では、縮小拡大を行わず、実際のサイズで印刷してください。
- 証明書の氏名が出願時と異なる場合(旧姓等)、戸籍抄本(戸籍個人事項証明書)を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳(原本)を必ず提出してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は受理できません。**
- 出身学校が発行する書類で原本が1通しか発行されない場合は、「原本」又は「原本から正しく複製されたもの(Certified true copy)」であることの証明を出身学校から受けたもの」を提出してください。
- 出願書類は、入学検定料支払い完了後に提出してください。

出願書類、入学検定料振込依頼書、宛名ラベルは本学ホームページの次の場所に掲載しています。
HOME > 入試・入学案内 > 入学試験要項・出願書類 > 大学院入学試験 出願書類



4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

領域	分野	指導教員		研究指導内容
バイオサイエンス	医療科学	○教授	永沼 充	人とロボットの相互作用に関する解析とネットワーク応用。
		○教授	内田 恭敬	機械学習を用いた下肢生体情報システムの高性能化に向け聴音や血流速度および歩行パターン分析、血液体外循環装置の予知保全などに関する研究。
		○教授	斉藤 幸喜	医療およびヘルスケア領域におけるデータサイエンス・機械学習に関する研究。特に、ディープラーニングを用いた医療データの解析に関する研究。
	生物科学	○教授	高谷 光	食品成分による抗肥満・抗糖尿病作用等の健康機能性を、実験動物やモデル細胞を用いて解明し、サプリメント等の機能性食品開発を目指す。
		○教授	岩瀬 礼子	核酸医薬を志向した遺伝子発現制御機能をもつ新規修飾オリゴヌクレオチド、及び、RNA検出機能を持つ新規蛍光核酸プローブの合成と機能性の解明。
		教授	東 克己	胚発生を中心とする植物の発生過程の分子メカニズムの解明と、不定胚形成を利用して物質生産、品種改良などに利用するための技術的基盤の開発。
	生物工学	○教授	松岡 浩	代謝工学的手法を用いる細胞内代謝過程の最適化による有用生理活性物質の生産性向上、特に竹資源などの植物性天然物からの有用物質生産。
		教授	佐野 友彦	化粧品、医薬品の製剤の有効性向上を目指し、界面科学的、物理的手段によって有効成分の経皮吸収性を高める研究、及び経皮吸収メカニズムの解明。

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

領域	分野	指導教員	研究指導内容
アニマルサイエンス	動物科学	○教授 森 貴久	動物の個体レベル以上で観察される生物学的な特徴の特に機能とメカニズムについて、行動学的・生態学的・進化学的な観点から解明する。
		○教授 近藤 保彦	動物の生殖行動、社会行動における化学感覚コミュニケーションの神経内分泌メカニズムを生理学・形態学・分子生物学的技法を用いて解析する。
		○教授 彦野 弘一	動物の感染症にかかわる微生物の病原性及び免疫応答を解明し、これらの基礎的知見に基づいて動物感染症の診断および予防法を開発する。
		教授 藪田 慎司	動物の信号行動の機能と動機づけメカニズムの研究を行う。また、イヌの探索・遊び・あいさつ、ドッグトレーナーとの相互行為などの研究を行う。
		○准教授 島田 将喜	長期のフィールドワークに基づき、野生動物の遊び行動・社会ネットワークを明らかにし、その発達上・進化上の重要性を探究する。
	人間動物関係学	○教授 花園 誠	ヒトと動物の共生に観点を置いた動物活用方法の研究。特に動物福祉を基盤とした動物介在教育の開発とその実用化に関する実践的研究。
		○教授 並木 美砂子	動物を飼育するという、人類に特異的な行為と文化的背景について、野生生物保全の観点から評価・考察し、これからの新たな動物と人の関係構築を探求する。
		教授 濱野 佐代子	人間と伴侶動物の関係について、心理学・獣医学的な観点から解明する。それを踏まえて、人間と伴侶動物の双方のウェルビーイングを探究する。
		准教授 加隈 良枝	動物福祉の行動学的・生理学的評価と、社会における人と動物の関係の分析に基づき、動物の適正な飼育法および管理技術を探究する。
	環境マテリアル	エコマテリアル	○教授 釘田 強志
○准教授 辻本 敬			再生可能なバイオマスを出発物質に用いた機能性高分子材料の開発、高分子の環境調和型製造プロセスに関する研究、相分離を利用した高分子多孔体の創製。
准教授 石井 あゆみ			光エネルギーの高効率利用や環境・生体機能における高度で複雑な科学現象の解明に向けた有機無機ハイブリッド型光機能材料・デバイスの開発。
環境科学		教授 渡邊 浩一郎	環境ストレスに適応した植物の機能解明と環境修復への利用に関する研究。特に好塩性植物の栄養生理学的研究、植物のリン栄養に関する研究。
		教授 橋本 慎治	絶滅危惧種や外来種の食性や生活史を解明する生態系保全に関する研究、及び東京湾やその流域の河川・湖沼における水質を解明する環境保全に関する研究。
		教授 篠原 正典	行動観察および遺伝的解析による野生動物の基礎生態に関する研究。また、それらを通じた人と動物の関係や生物保全に関しての研究。
		教授 和田 龍一	微量な大気汚染物質を計測可能な分析装置を開発し、森林・山岳および都市におけるフィールド観測に応用することで、大気環境を明らかにする研究。

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

領域	授業科目	担当教員
バイオサイエンス	情報科学特論	教授 永沼 充
		教授 斉藤 幸喜
	医療工学特論	教授 内田 恭敬
	生物科学特論	教授 高谷 光
		教授 岩瀬 礼子
		教授 東 克己
	生物工学特論	教授 松岡 浩
		教授 佐野 友彦
	バイオサイエンス特別輪講第一 バイオサイエンス特別輪講第二 バイオサイエンス特別実験第三 バイオサイエンス特別実験第四	各教員
アニマルサイエンス	動物科学特論	教授 森 貴久
		教授 近藤 保彦
		教授 花園 誠
		教授 藪田 慎司
		准教授 島田 将喜
		准教授 加隈 良枝
	人間動物関係学特論	教授 森 貴久
		教授 近藤 保彦
		教授 花園 誠
		教授 藪田 慎司
		准教授 島田 将喜
		准教授 加隈 良枝
	アニマルサイエンス特別輪講第一 アニマルサイエンス特別輪講第二 アニマルサイエンス特別実験第三 アニマルサイエンス特別実験第四	各教員

領域	授業科目	担当教員
環境マテリアル	マテリアルズ・サイエンス特論	准教授 辻本 敬
	セラミックス材料特論	教授 釘田 強志
	アドバンスト・マテリアルズ特論	准教授 石井 あゆみ
	環境マテリアル特別輪講第一 環境マテリアル特別輪講第二 環境マテリアル特別実験第三 環境マテリアル特別実験第四	各教員

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

医療科学研究科 修士課程

総合リハビリテーション学専攻
看護学専攻
柔道整復学健康ケア専攻

1 選考方法(時間割及び試験内容)

●総合リハビリテーション学専攻、看護学専攻

筆記試験(英語、小論文)、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に可否を決定します。

時間	試験内容等	
9:00 ～ 9:30	集合時間	9:30までに着席してください。
9:45 ～ 10:00	受験上の注意	筆記試験の注意事項を説明します。
10:00 ～ 11:00	英語	大学から辞書を貸与します。
11:20 ～ 12:20	小論文	
12:50 ～ 13:00	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:00 ～	面接	志望する研究内容や意欲等について、15分程度の面接を行います。

●柔道整復学健康ケア専攻

筆記試験(専門科目、英語、小論文)、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に可否を決定します。

時間	試験内容等	
9:00 ～ 9:30	集合時間	9:30までに着席してください。
9:45 ～ 10:00	受験上の注意	筆記試験の注意事項を説明します。
10:00 ～ 11:00	専門科目	柔道整復学における主な運動器外傷、身体運動等に関する知識を測る試験を行います。
	英語	基礎的な知識を測る試験を行います。大学から辞書を貸与します。
11:20 ～ 12:20	小論文	
12:50 ～ 13:00	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:00 ～	面接	志望する研究内容や意欲等について、15分程度の面接を行います。

2 試験場

千住キャンパス ※案内図はP31をご確認ください。

3 出願書類

以下の書類をそろえて出願期間内に提出してください。なお、原則として、提出された書類は返却しません。また、各書類を手書きする場合はボールペン(消せるボールペンは不可)で記入してください。 ○:必須 △:該当者のみ

出願書類			注意事項等
A	志願票 (本学所定用紙)	○	必要事項を記入のうえ、出願前3か月以内に撮影したカラー写真(縦4cm×横3cm、正面上半身、無帽、無背景のもの)の裏面に志望専攻名及び氏名を明記し、所定欄に貼付してください。
B	卒業(見込)証明書	○	令和4年4月1日以降に最終学歴校の学長等が作成・証明し、厳封したもの ※外国の大学・大学院を卒業(修了)した方は、学位取得証明書(原本)も併せて提出してください。
C	成績証明書	○	※編・転入学により入学し、大学を卒業(見込み)の方は、それ以前の大学等の成績証明書及び在籍期間を証明する書類も併せて提出してください。
D	学位授与取得証明書	△	出願資格2に該当する場合 ※授与される見込みの方については、授与後速やかに提出してください。
E	志望理由書(本学所定用紙)	○	志望理由及び将来の研究に対する希望について400字程度にまとめたもの
F	受験承諾書(本学所定用紙)	△	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を提出してください。
G	住民票の写し	△	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください(日本の在留資格「永住者」「定住者」を除く)。
H	入学資格認定書のコピー	△	個別の入学資格審査により本学への入学資格を認められた方は入学資格認定書のコピー(A4サイズ)を提出してください。
I	長期履修制度申請書(本学所定用紙)	△	申請を希望する方はP23を確認のうえ、手続きを行ってください。

《出願書類に関する注意事項》

- 出願書類については、本学所定用紙を本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に片面印刷をしてください。また、印刷時のページサイズの設定では、縮小拡大を行わず、実際のサイズで印刷してください。
- 証明書の氏名が出願時と異なる場合(旧姓等)、戸籍抄本(戸籍個人事項証明書)を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳(原本)を必ず提出してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は受理できません。
- 出身学校が発行する書類で原本が1通しか発行されない場合は、「原本」又は「原本から正しく複製されたもの(Certified true copy)」であることの証明を出身学校から受けたもの」を提出してください。
- 出願書類は、入学検定料支払い完了後に提出してください。

出願書類、入学検定料振込依頼書、宛名ラベルは本学ホームページの次の場所に掲載しています。
HOME > 入試・入学案内 > 入学試験要項・出願書類 > 大学院入学試験 出願書類



4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

専攻	分野	指導教員	研究指導内容
総合リハビリテーション学	医学的リハビリテーション／社会的リハビリテーション	○教授 潮見 泰藏	理学療法教育に関する研究、および脳傷害後の運動障害に対する評価指標ならびにトレーニングプログラムの開発に関する研究。
		○教授 鈴木 幹夫	精神障害(気分障害、統合失調症など)についての、臨床精神病理学的研究。
		○教授 山田 健司	人口変容による地域生活問題とターミナルケアに対応する医療・福祉セーフティーネットワーク構築およびシステムのDX化方法についての研究。
		○教授 津田 彰	ウェルビーイング(well-being)ー持続可能で多面的な幸せの状態と特性一のストレス及び健康-病気の結果に及ぼす効果に関する生物心理社会的メカニズムの研究と実践。
		○教授 真先 敏弘	微生物を用いた幹細胞の人工的作成方法の開発、および作成した幹細胞を利用することによる神経系などの疾患を対象とした再生治療法の開発。
		○教授 宮下 智	高齢者からアスリートまでの運動機能を体幹運動と四肢の連動動作から解析し、身体機能向上トレーニング開発に関する研究。
		○教授 萩原 宏毅	骨格筋萎縮のメカニズムの解明と改善のための介入方法の開発。運動が筋・代謝・脳機能に与える影響の研究。新規理学療法的介入と評価方法の開発。
		教授 江口 英範	障害別および動作別の基本動作パターン間における難易度とその規定因子に関する研究。
		教授 村上 憲治	スポーツ傷害発症メカニズムの解明とそれに基づくスポーツリハビリテーションならびに傷害予防プログラムの開発およびパフォーマンス向上に関する研究。
		教授 楠永 敏恵	病いや障害とともに生きる人の経験について当事者の立場から明らかにし、必要な支援を検討する研究や、在宅の医療的ケアに関する研究など。
		教授 西條 富美代	福祉用具利用のメリット・デメリットを明らかにし、生活パターンに合わせた福祉用具の利用方法や介護者の身体的負担軽減方法に関する研究。
		教授 加藤 洋子	医療依存度の高い超重症児の在宅医療実態調査や家族の健康的な生活の質(HRQOL)の評価研究。地域医療を担う医療ソーシャルワーカーの役割を究理実践につながるよう研究指導。
		○准教授 廣瀬 昇	運動時の呼吸循環応答に関する基礎・臨床応用に関する研究、運動が骨格筋及び身体活動に及ぼす影響に関する研究。
		准教授 芹田 透	肩甲骨周囲筋に分布する血管の走行に関する研究。肩関節インナーマッスルの形態的特徴についての研究。深層筋の効果的な触察方法についての研究。
		准教授 三木 良子	・ソーシャルワークを基盤とした精神障害者の就労や雇用に関する研究 ・刑事事件に関与した障害者等への支援に関する研究

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

専攻	分野	指導教員	研究指導内容
看護学	療養生活支援看護学	○教授 津田 茂子	健康障害をもちながら、社会生活を営む小児と家族の適応を促進し、セルフケアを維持し、より高い生活の質を保証していくための研究について指導を行う。
		○教授 大西 奈保子	がん・非がんにかかわらず終末期にある患者・家族への緩和ケアやグリーフケア、倫理的問題、在宅ケアなどターミナルケア全般の研究指導を行う。
		○教授 清野 純子	患者及び医療者が抱える問題やストレスを扱い、問題・課題解決のための方略や困難を乗り越える力(レジリエンス)について研究指導を行う。
		○准教授 大原 裕子	糖尿病をもつ人の療養生活やアドバンスケアプランニング等老年期の課題を視野に入れた、糖尿病患者のセルフケア支援について研究指導を行う。
		准教授 大森 美保	・看護業務の標準化によるリスク管理と看護の質保証に関する研究 ・リハビリテーション看護を中心に療養上の世話における専門性に関する研究
		准教授 田中 博子	・居宅で生活を送る療養者の意思を尊重した看護介入に関する研究 ・療養者と家族の合意形成をめざす訪問看護師の支援に関する研究
	地域生活支援看護学	○教授 吉岡 幸子	高齢者虐待やセルフ・ネグレクト、依存症関連問題に対して、地域ケアシステムの視点から、要因分析、対応方法、予防などについて研究指導を行う。
		○教授 糸井 和佳	高齢者の在宅療養支援、介護予防、高齢者と子育て世代の世代間交流、若年性認知症者を支えるネットワーク等の研究分野で修士論文作成を指導する。
		○教授 新野 由子	思春期、性成熟期、更年期の女性の健康に関する問題やケアのあり方、母子保健政策・施策に関する研究など、問題点や課題に関して、解決に繋げていくことを目指し研究指導を行う。
		○教授 宮城 純子	精神障害者の地域生活支援や司法精神医療に関連する触法精神障害者の諸問題について、家族や倫理的な問題を含めた支援の在り方について指導を行う。
		○教授 呂 曉彤	日中の発達障害を中心に自閉症スペクトラムの療育についての調査研究と特別支援教育、障害児・者福祉システムに関する比較研究を指導します。
		○准教授 大釜 信政	居宅で安心して療養生活が送れるよう保健・医療サービスの拡充を目指し、地域包括ケアシステムに資する看護職の職能開発について研究指導を行う。
		准教授 勝又 里織	特定妊婦、人工妊娠中絶、不妊治療、出生前診断等、周産期を取り巻く課題における女性の意思決定とその支援のあり方に関する研究指導を行う。
		准教授 高木 悦子	地域母子保健における未就学児育児中の両親の育児支援の在り方について、とくに虐待行動に関わる要因の検討や父親の育児参加について研究指導を行う。
	柔道整復学健康ケア	○教授 渡會 公治	スポーツ外傷・障害の原因、要因の追究と予防に関する研究。
		○教授 久保田 俊一郎	組織(心筋・骨格筋・神経など)の再生に関する研究。
		○教授 杉山 渉	カスタムメイド・マウスガード(CMG)に関する研究 1. 市販マウスガードとCMG装着時の筋力の相違 2. 各種スポーツのCMGの厚さによる相違
		○教授 山内 禎祐	画像診断(X線CT、MRI、血管造影)およびその応用に関する研究。
		○教授 有賀 雅史	スピード・パワーなどスポーツパフォーマンスに関する評価とその各種トレーニング効果に関する研究。
		○教授 渡邊 利明	・パーキンソン病の神経病理学的研究 ・骨粗鬆症関連DNAの検索の神経病理学的研究
		○教授 市毛 雅之	様々な年齢におけるスポーツ及び日常生活動作における外傷の発生機序・発生率とその動作、無血療法、またその外傷の予防法に関する研究。
		○教授 二神 弘子	皮膚触刺激(手技療法)や匂い刺激(アロマ)、音刺激(言葉かけ)が心と身体に及ぼす影響について、自律神経およびホルモン反応を指標とした研究。
		○教授 高田 雄三	尿酸は強力な抗酸化作用を有し長寿やアンチエイジングなどに関連する可能性があることから、尿酸輸送体について分子生物学的機能解析を行う。
		○准教授 市ヶ谷 武生	整復・固定の機能解剖学的視点による研究。
		○准教授 行田 直人	・腰痛や各関節等の痛みに対する徒手による圧痛検査の評価法に関する研究。 ・痛み等の愁訴改善対策としての運動による効果を動作分析学的に研究。
		准教授 田村 昌大	・スポーツにおけるコンディショニングと競技分析に関する研究 ・柔道整復師の社会的考察に関する研究

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

●総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

分野	授業科目	担当教員
医学的リハビリテーション	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	教授 潮見 泰藏
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	神経発達機能解析学特論	
	神経発達機能解析学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	教授 宮下 智
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	運動機能解析学特論	
	運動機能解析学演習	
	リハビリテーション神経科学特論	教授 萩原 宏毅
	リハビリテーション神経科学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	准教授 廣瀬 昇
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	内部機能解析学特論	
	内部機能解析学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅰ	教授 真先 敏弘
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	臨床神経内科・生活習慣病治療学特論	
	臨床神経内科・生活習慣病治療学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 江口 英範
	生活動作解析学特論	
	生活動作解析学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 村上 憲治
	障害予防・健康増進学特論	
	障害予防・健康増進学演習	准教授 芹田 透
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	運動器リハビリテーション特論	各教員
	運動器リハビリテーション演習	
	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	各教員
	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	

分野	授業科目	担当教員
社会的リハビリテーション	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 山田 健司
	高齢化地域生活支援学特論	
	高齢化地域生活支援学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 鈴木 幹夫
	社会病理学特論	
	社会病理学演習	教授 西條 富美代
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	福祉支援工学特論	教授 西條 富美代
	福祉支援工学演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 楠永 敏恵
	医療社会支援学特論	
	医療社会支援学演習	教授 加藤 洋子
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	
	医療福祉マネジメント特論	教授 加藤 洋子
	医療福祉マネジメント演習	
	総合リハビリテーション学研究法特論Ⅱ	教授 津田 彰
	健康心理学特論	
	健康心理学演習	准教授 三木 良子
	社会リハビリテーション学特論	
	社会リハビリテーション学演習	各教員
	総合リハビリテーション学特別研究Ⅰ	
	総合リハビリテーション学特別研究Ⅱ	

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

●看護学専攻(修士課程)

区分(分野)	授業科目	担当教員
共通科目	看護学研究法特論Ⅰ 看護理論特論	教授 津田 茂子
療養生活 支援看護学	療養生活支援看護学総論 小児看護学特論 小児看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護学研究法特論Ⅱ 看護倫理特論	教授 大西 奈保子
療養生活 支援看護学	療養生活支援看護学総論 緩和ケア特論 緩和ケア演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護学研究法特論Ⅱ 看護教育学特論	教授 清野 純子
療養生活 支援看護学	療養生活支援看護学総論 療養生活ケア特論 療養生活ケア演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	多職種連携特論	教授 吉岡 幸子
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 地域看護学特論 地域看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護学研究法特論Ⅰ 看護システムマネジメント特論	教授 新野 由子
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 母性看護学特論 母性看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護学研究法特論Ⅰ 看護学研究法特論Ⅱ	教授 糸井 和佳
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 地域看護学特論 地域看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護教育学特論	准教授 大原 裕子
療養生活 支援看護学	療養生活支援看護学総論 療養生活ケア特論 療養生活ケア演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	

区分(分野)	授業科目	担当教員
共通科目	看護学研究法特論Ⅱ	教授 宮城 純子
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 精神保健看護学特論 精神保健看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護教育学特論	教授 呂 晓彤
地域生活 支援看護学	発達障害ケア特論 発達障害ケア演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護倫理特論	准教授 勝又 里織
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 母性看護学特論 母性看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護システムマネジメント特論 フィジカルアセスメント特論	准教授 大釜 信政
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	多職種連携特論	准教授 高木 悦子
地域生活 支援看護学	地域生活支援看護学総論 地域看護学特論 地域看護学演習	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	看護システムマネジメント特論	准教授 大森 美保
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	多職種連携特論	准教授 田中 博子
特別研究	看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	
共通科目	生命倫理特論	兼任講師 冲永 隆子
	生活習慣病治療学特論	兼任講師 真先 敏弘
	社会病理学特論	兼任講師 鈴木 幹夫
	保健・医療統計学特論	兼任講師 櫻谷 あすか
	多職種連携特論	兼任講師 山田 健司
	多職種連携特論	兼任講師 宮下 智
	多職種連携特論	兼任講師 三木 良子
	健康心理学特論	兼任講師 津田 彰

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

●柔道整復学健康ケア専攻(修士課程)

授業科目	担当教員
健康増進体力学特論 健康ケア医療科学特論 健康ケア医療科学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 有賀 雅史
運動器外傷学特論 運動器外傷学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 市毛 雅之
健康ケア医療科学特論 健康ケア医療科学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 久保田 俊一郎
身体構造学特論 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 杉山 渉
身体構造学特論 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 高田 雄三
身体健康ケア特論 身体健康ケア演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 二神 弘子

授業科目	担当教員
臨床医療科学特論 臨床医療科学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 山内 禎祐
病因論特論 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 渡邊 利明
身体機能学特論 健康科学特論 身体健康ケア特論 身体健康ケア演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	教授 渡會 公治
徒手療法学特論 応用実践整復医療学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	准教授 市ヶ谷 武生
運動分析学特論 運動分析学演習 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ 柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	准教授 行田 直人
特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ	各教員 (兼任講師を除く)
健康心理学特論	兼任講師 津田 彰
応用実践整復医療学特論	兼任講師 畑山 元政

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

6 授業の実施方法

本研究科(修士課程)では授業時間を原則として、昼夜開講します。できるだけ大学院生に合わせた開講時間を設定しますので、事前相談の際にご相談ください。また、夏期休業期間及び冬期休業期間に集中講義を柔軟に実施します。

7 長期履修制度

本研究科(修士課程)では、職業等に従事している等の事情により、大学院の標準修業年限(2年)で履修することが困難な場合、4年を上限として計画的に教育課程を履修することができる長期履修制度を導入しています。

(1) 申請資格

長期履修制度に申請できる方は、職業を有している方又はその他やむを得ない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難な方に限ります。

(2) 申請対象研究科・専攻

医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(修士課程)
看護学専攻(修士課程)
柔道整復学健康ケア専攻(修士課程)

(3) 長期履修期間

長期履修期間は、年度単位とし、次のいずれかとします。

- ① 入学時から長期履修制度を許可された方は、3年又は4年
- ② 1年次に長期履修制度を許可された方は、残りの修業年限に1年又は2年を加えた年数

(4) 申請時期及び申請書類

出願時に申請する場合は、出願期間内に出願書類とともに、長期履修制度申請書(本学所定用紙)のほか、職業を有している方は在職証明書、その他のやむを得ない事情の場合はその事情を証明する書類を提出してください。合格通知とともに、申請の許可又は不許可についてお知らせします。
※入学後に申請する場合は、教務課教務係へお問合わせください。

(5) 長期履修期間の変更

入学後、長期履修期間の延長又は短縮を申請することができます。ただし、変更は1回限りとします。

(6) 授業料等について

長期履修制度における授業料等(授業料及び施設設備費)の年額は、学則に定める授業料等の年額に、標準修業年限を乗じ、その額を長期履修期間の年数で除した額とします。その額に千円未満の端数が生じる場合は切り下げ、端数の合計額を初年時に加算します。在学中に長期履修期間の変更が認められた場合は、新たな履修期間に応じて再計算します。

(7) 本件に関する問合わせ先

帝京科学大学 入試・広報課 入試担当 TEL:03-6910-3706(直通)
受付時間:平日 9時～16時、土曜日 9時～12時
※日曜日、祝日、年末年始(12月28日(水)～1月4日(水))は事務取扱いはしません。

医療科学研究科 博士課程

総合リハビリテーション学専攻

1 選考方法(時間割及び試験内容)

(1) 一般選考

筆記試験(英語、小論文)、口述試験・面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。

時間	試験内容等	
9:00 ～ 9:30	集合時間	9:30までに着席してください。
9:45 ～ 10:00	受験上の注意	筆記試験の注意事項を説明します。
10:00 ～ 11:00	英語	大学から辞書を貸与します。
11:20 ～ 12:20	小論文	
12:50 ～ 13:00	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:00 ～	口述試験・面接	修士学位論文あるいはこれまでの研究内容等について、発表と質疑応答、博士課程における研究概要等について、30分程度の口述試験・面接を行います。

(2) 社会人選考

出願資格の各号のいずれかに該当する方で、各種の研究機関、教育機関又は企業等に2年以上勤務し、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた社会人を対象に、面接及び書類審査(成績証明書、志望理由書等)を行い、総合的に合否を決定します。

時間	試験内容等	
12:15 ～ 12:45	集合時間	12:45までに着席してください。
12:50 ～ 13:00	受験上の注意	面接試験の注意事項を説明します。
13:00 ～	面接	志望する研究内容等の他、提出された研究計画書等について、30分程度の面接を行います。

2 試験場

千住キャンパス ※案内図はP31をご確認ください。

3 出願書類

以下の書類をそろえて出願期間内に提出してください。なお、原則として、提出された書類は返却しません。また、各書類を手書きする場合はボールペン(消せるボールペンは不可)で記入してください。

○:必須 △:該当者のみ

出願書類			注意事項等
A	志願票(本学所定用紙)	○	必要事項を記入のうえ、出願前3か月以内に撮影したカラー写真(縦4cm×横3cm、正面上半身、無帽、無背景のもの)の裏面に志望専攻名及び氏名を明記し、所定欄に貼付してください。
B	卒業証明書及び修了(見込)証明書	○	令和4年4月1日以降に出身大学及び大学院の学長等が作成・証明し、厳封したもの ※外国の大学・大学院を卒業(修了)した方は、学位取得証明書(原本)も併せて提出してください。
C	成績証明書	○	①出願資格1により出願する方:学部及び大学院修士課程の成績証明書 ②出願資格2、3、4、5により出願する方:当該教育課程の成績証明書 ③出願資格6、7により出願する方:最終出身大学等の成績証明書 ※上記①、②、③は、令和4年4月1日以降に出身大学長等が作成・証明し、厳封したもの ※編・転入学により入学し、大学を卒業(見込み)の方は、それ以前の大学等の成績証明書及び在籍期間を証明する書類も併せて提出してください。
D	学位授与取得証明書	△	出願資格2に該当する場合 ※授与される見込みの方については、授与後速やかに提出してください。
E	志望理由書(本学所定用紙)	○	志望理由及び将来の研究に対する希望について400字程度にまとめたもの
F	・修士学位論文の写し ・修士学位論文要旨(本学所定用紙) ・研究経過報告書(本学所定用紙)	○	①修士の学位論文を提出した方は、修士学位論文の写し及び修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ②令和5年3月に修士課程修了見込みの方は、修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ※上記に加えて公表論文・研究業績がある場合は、論文等の写し及び研究業績調書(本学所定用紙)を提出してください。 ③上記①、②以外の方は、研究経過報告書(本学所定用紙)を提出してください。
G	研究計画書(本学所定用紙)	○	400字程度にまとめたもの
H	受験承諾書(本学所定用紙)	△	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を提出してください。
I	住民票の写し	△	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください(日本の在留資格「永住者」「定住者」を除く)。
J	入学資格認定書のコピー	△	個別の入学資格審査により本学への入学資格を認められた方は入学資格認定書のコピー(A4サイズ)を提出してください。

◀出願書類に関する注意事項▶

- 出願書類については、本学所定用紙を本学ホームページからダウンロードし、A4サイズのコピー用紙に片面印刷をしてください。また、印刷時のページサイズの設定では、縮小拡大を行わず、実際のサイズで印刷してください。
- 証明書の氏名が出願時と異なる場合(旧姓等)、戸籍抄本(戸籍個人事項証明書)を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳(原本)を必ず提出してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は受理できません。
- 出身学校が発行する書類で原本が1通しか発行されない場合は、「原本」又は「原本から正しく複製されたもの(Certified true copy)」であることの証明を出身学校から受けたものを提出してください。
- 出願書類は、入学検定料支払い完了後に提出してください。

出願書類、入学検定料振込依頼書、宛名ラベルは本学ホームページの次の場所に掲載しています。
HOME > 入試・入学案内 > 入学試験要項・出願書類 > 大学院入学試験 出願書類



4 指導教員及び指導内容 ○:主指導教員

専攻	指導教員		研究指導内容
総合リハビリテーション学	○教授	潮見 泰藏	脳傷害後の運動障害に対する評価指標ならびにトレーニングプログラムの開発に関する研究。
	○教授	山田 健司	人口変容による生活問題と終末期ケアに対応する医療・看護・介護・福祉ネットワークシステム構築の研究。
	○教授	津田 彰	ウェルビーイング(well-being)ー持続可能で多面的な幸せの状態と特性ーのストレス及び健康・病気の結果に及ぼす効果に関する生物心理社会学的メカニズムの研究と実践。

専攻	指導教員		研究指導内容
総合リハビリテーション学	○教授	吉岡 幸子	個人や家族、地域特性を踏まえ、生活者としての健康課題を予防的介入方法に関する研究。
	○教授	鈴木 幹夫	精神障害(気分障害・統合失調症)についての、臨床的リハビリテーションに関する研究。
	○教授	真先 敏弘	神経内科領域の再生医療を取り上げ、本分野での幹細胞移植治療についての研究。
	○教授	萩原 宏毅	運動が骨格筋、代謝、脳機能に与える影響や運動制御の神経機構についての研究。
	○教授	高田 雄三	抗酸化ストレス関連遺伝子による生活習慣病の分子病態解析・予防医学に関する研究。
	○教授	宮城 純子	精神障害者に対する社会復帰や地域支援体制の確立に関する研究。
	○教授	糸井 和佳	世代間交流を用いた健康長寿ならびに認知症に優しいコミュニティづくりとその効果に関する研究。
	○教授	宮下 智	高齢者からアスリートまでのKinetic Chain解析と機能的動作獲得につながる体幹・四肢連動トレーニングの開発と効果判定に関する研究。
	教授	楠永 敏恵	在宅の医療的ケアに関する包括的分析とその対策に関する研究。
総合リハビリテーション学	○准教授	廣瀬 昇	運動が骨格筋及び身体活動に及ぼす影響に関する研究。

※指導教員については、退職等により変更になる場合があります。

5 授業科目及び担当教員

専攻	分野	授業科目	担当教員	
総合リハビリテーション学	共通科目	総合リハビリテーション学研究倫理特講	教授	宮下 智
			准教授	廣瀬 昇
		総合リハビリテーション学研究法特講	教授	潮見 泰藏
			教授	山田 健司
	専門科目	総合リハビリテーション学特講Ⅰ	教授	高田 雄三
			教授	真先 敏弘
			教授	萩原 宏毅
			教授	鈴木 幹夫
		総合リハビリテーション学特講Ⅱ	教授	潮見 泰藏
			教授	山田 健司
			教授	宮下 智
			准教授	廣瀬 昇
		総合リハビリテーション学特講Ⅲ	教授	山田 健司
			教授	津田 彰
			教授	吉岡 幸子
			教授	糸井 和佳
総合リハビリテーション学	特別研究指導	特別研究指導Ⅰ	教授	潮見 泰藏
			教授	山田 健司
			教授	津田 彰
			教授	吉岡 幸子
		特別研究指導Ⅱ	教授	鈴木 幹夫
			教授	真先 敏弘
			教授	萩原 宏毅
			教授	高田 雄三
		特別研究指導Ⅲ	教授	宮城 純子
			教授	宮下 智
			教授	糸井 和佳
			教授	楠永 敏恵
			准教授	廣瀬 昇

※授業科目については、令和5年度開講予定科目を記載しています。
※担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

6 授業の実施方法

本研究科(博士課程)では授業時間を原則として、昼夜開講します。できるだけ大学院生に合わせた開講時間を設定しますので、事前相談の際にご相談ください。また、夏期休業期間及び冬期休業期間に集中講義を柔軟に実施します。

入学試験に関する注意

▶ 試験場の下見について

- ・原則として、試験日前日から試験場内へ立ち入ることはできません。交通機関、道順、所要時間を調べる程度にとどめてください。

▶ 受験票について

- ・試験当日は必ず受験票を持参してください。受験票がない方は受験できません。
- ・試験当日、紛失や忘れ等により手元に受験票がない場合は、本人確認書類(学生証、健康保険証等)を持参のうえ、係員に申し出てください。

▶ 試験日、試験場及び試験時間について

- ・試験日及び試験時間を間違えないよう、受験票で必ず確認してください。
- ・指定された試験日及び試験時間以外では受験できません。
- ・試験場へは公共交通機関を利用してください。
- ・受験者以外(付添者)の試験場への立ち入りは、原則としてできません。

▶ 遅刻について

- ・試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めます。ただし、試験時間の延長は認めません。
- ・試験当日、天候不良や事故・地震等により公共交通機関に乱れが生じ、集合時刻までに試験場に到着できない可能性がある場合は、受験票に記載の電話番号に必ず連絡し、指示を受けてください。
- ・主要公共交通機関(バス・車の渋滞等は除く)の乱れにより、多数の受験者が試験開始時刻に間に合わないとなれば、本学が判断した場合のみ、試験開始時刻を遅らせることがあります。

▶ 受験上の注意 ～新型コロナウイルス感染症対策に関する注意事項(P29)を遵守してください～

- ・試験場及び試験室(面接控室)の入口で受験票の提示を求めることがあります。
- ・試験室(面接控室)では、机上の受験番号ラベルが受験票の受験番号と同一であることを確認して、着席してください。
- ・受験票は監督者が見やすいように、机上の受験番号ラベルの下に置いてください。
- ・机上に置けるものは、受験票、鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、消しゴム、鉛筆削り、時計機能だけの時計、メガネ、ハンカチ、目薬、袋や箱から取り出したティッシュペーパーとします(全専攻の筆記試験(英語)の試験時間のみ、これらに加えて本学から貸与する英和辞書を机上に置くことを認めます。)。これ以外の所持品を机上に置くことは認めません。アラームや時報機能のついた時計は、試験室に入る前に必ず設定を解除してください。
- ・筆記用具、腕時計の貸借は禁止しますので忘れずにお持ちください。
- ・風邪等の理由により、ハンカチ、ティッシュペーパー、ひざかけ、目薬、鼻薬等の使用を希望する方は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。(マスクは各自持参のうえ、常に鼻と口の両方を確実に覆うように正しく着用してください。なお、写真票と受験者の顔を確認する際は、一時的にマスクを外すよう指示することがあります。)
- ・耳栓は、監督者及び係員の指示等が聞き取れないことがあるため、使用できません。
- ・携帯電話、スマートフォン、音楽プレーヤーウェアラブル端末等の音の出る機器や時計等は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってかばん等に入れてください。マナーモードに設定していても、必ず電源を切ってください。これらを時計として使用することはできません。なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話の着信音やマナーモードの振動音等が発生した場合は、監督者及び係員が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験場総合案内で保管する場合があります。
- ・試験場内でコート類を着用しても差支えありません。
- ・英文字や地図等がプリントされた服等は着用しないでください。
- ・試験に必要なもの、全てかばん等に入れて椅子の下に置いてください。

- ・不正行為について

- (1) 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示し、当日の成績は無効とします。また、当該年度の本学の全ての入学試験の受験はできなくなるとともに、当該年度の本学の全ての入学試験の結果を無効とすることがあります。なお、この取扱いに伴う入学検定料の返還は行いません。
 - ―問題冊子や解答用紙へ故意に虚偽の記入(受験者本人以外の氏名や受験番号を記入する等)をすること。
 - ―カンニング(試験の科目に関係するメモやコピー等を机上等に置いたり見たりすること、教科書、参考書、辞書等の内容を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること等)をすること。
 - ―他の受験者に答えを教えたり、カンニングの手助けをすること。
 - ―配付された問題冊子、解答用紙を試験室の外に持ち出すこと。
 - ―「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
 - ―試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む)、コンパス、そろばん、グラフ用紙等の補助具や携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン等の電子機器類を使用すること。
 - ―「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。
- (2) 上記(1)以外にも、次のことをした場合、不正行為となることがあります。監督者等の指示に従わず、不正行為と認定された場合は上記(1)と同様に扱います。
 - ―試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む)、コンパス、そろばん、グラフ用紙等の補助具や携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン等の電子機器類、教科書、参考書、辞書等の書籍類をかばんにしまわず、身に着けていたり、手に持っていること。また、待機時間中にこれらを使用すること。
 - ―試験時間中に、携帯電話や時計等の音(着信、アラーム、振動音等)を長時間鳴らす等、試験の進行に影響を与えること。
 - ―試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申告をすること。
 - ―試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
 - ―試験場において、監督者等の指示に従わないこと。
 - ―その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。
- ・試験時間内の答案提出、退室は認めません。体調不良やトイレ等により、やむを得ず退室を希望する場合は、手を挙げて監督者及び係員の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも試験室以外での受験はできません。また、一時退室をした場合の試験時間の延長は認めません。
- ・試験時間中に日常生活騒音(監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せ等、自動車・風雨・空調の音等、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音等、時計や携帯電話等の電子機器類の短時間の鳴動、照明の点滅、周囲の建物のチャイム音・周囲の工事音等)が発生した場合でも救済措置は行いません。
- ・試験終了後、忘れ物がないか確認してから退出してください。忘れ物をした場合は、受験票に記載の電話番号に連絡してください。
- ・受験票は必ず持ち帰り、大切に保管してください。
- ・昼食をとる場合は持参し、自席で黙食してください。食事後は速やかにマスクを着用してください。

▶ 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

- ・試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう等)に罹患し、治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。
- ・なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置及び入学検定料の返還は原則として行いません。試験当日の体調管理については、十分に注意してください。

新型コロナウイルス感染症対策に関する注意事項

本学では入学試験を実施するにあたり、以下のとおり新型コロナウイルス感染拡大を防止するための措置を講じます。入学試験に関わる試験監督者等の体調管理の徹底、試験場環境の整備等の他、受験者への協力要請を記載しております。全ての受験者が安心して安全な環境下で受験ができるようご協力ください。

▶ 受験者へのお願い

日頃から、「三つの密」の回避や「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い等の手指衛生」、「換気」をはじめとした基本的な感染症対策の徹底を行い、「新しい生活様式の実践」等に努めてください。また、バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠、朝等に体温測定を行い体調の変化の有無を確認する等、体調管理を行ってください。

[入学試験前]

- 試験日の7日前から朝等に体温測定等を行い体調の変化の有無について確認してください。
- 試験日の1週間程度前から、発熱・咳等の症状がある場合は、必ず医療機関で受診を行ってください。
- 海外から日本に入学して受験する場合、防疫対策として要請される事項に基づき行動する必要があります。入学後に待機を要請される場合は、その期間は受験できないため、待機期間の有無を確認のうえ余裕をもって入学してください。
- 発熱・咳等の症状がない無症状の濃厚接触者について
 - 以下の条件を満たす方は受験を認めます。
 - 初期スクリーニング検査（自治体又は自治体から指示された医療機関が実施するPCR等の検査（行政検査））実施後、検査結果が、陰性であること。＊検査結果が判明するまでは受験は認めません。
 - 試験当日も無症状であること。
 - 公共の交通機関を利用せず、かつ人が密集する場所を避けて試験場に来ること。（自家用車の利用を認めます。）
 - 終日、別室受験であることを認めること。
- 以下の方は、入学試験の振替（追試験[※]）対象者となりますので、本学入試・広報課入試担当（以下、「入試担当」とする。）に必ずご連絡ください。
 - 試験前に新型コロナウイルス感染症に罹患し、試験日までには医師が治癒したと診断していない方。
 - 試験前から継続して発熱や咳等の症状がある方。
 - 試験直前に保健所等からの連絡により、濃厚接触者に該当すると判明した方。
 - 試験当日に、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある方や、基礎疾患等により重症化しやすい方が発熱・咳等の比較的軽い風邪の症状が続く方。
 - 試験当日に、上記に該当しないものの、発熱や咳等の症状がある方。
 - 発熱・咳等の症状がない無症状の濃厚接触者で、受験をすることに不安を感じる方。
 - 発熱・咳等の症状がない無症状の濃厚接触者で、初期スクリーニング検査実施後の検査結果が判明していない方。

[入学試験当日]

- 試験当日に、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合、基礎疾患等により重症化しやすい方が発熱・咳等の比較的軽い風邪の症状が続く場合の他、発熱・咳等の比較的軽い風邪の症状が続く場合は、試験当日における対応等について、かかりつけ医や「受診・相談センター」（地域により名称が異なる場合があります）に相談するとともに、入試担当に必ずご連絡ください。その場合は、入学試験日の振替（追試験[※]）等を検討いたします。
- 試験当日に、上記に該当しないものの、発熱や咳等の症状がある方は、その旨を入試担当に必ずご連絡ください。別室受験や入学試験日の振替（追試験[※]）等を検討いたします。
- 試験開始前に発熱・咳等の症状を試験監督者等が確認します。受験者本人の申し出により、発熱・咳等の症状があった場合には別室受験や入学試験日の振替（追試験[※]）等を検討いたします。
- 各自マスクを持参し常に着用することを義務づけます。ただし、何らかの事情によりマスクの着用が困難な場合は、入試担当までご連絡ください。
- 試験場や試験室への入退場を行うごとに、消毒用アルコール製剤による手指消毒を徹底してください。
- 試験終了後は一斉解散を行いません。入学試験に関わる試験監督者等の指示に従い解散をしてください。また、試験終了後は寄り道等をせず真っ直ぐ帰宅してください。

※追試験について

入学試験日の振替による追試験日程は、本学ホームページをご確認ください。

HOME

▶

入試・入学案内

▶

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について



[その他]

- 新型コロナウイルス感染症以外の疾患の罹患を防ぐためにも、インフルエンザワクチンやその他の予防接種を行うことが望ましいとされています。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）は、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性がある場合に通知を受けることができます。その後の検査等がスムーズに受けることができることから、COCOAを活用することが望ましいとされています。（通知を受けたことが、濃厚接触者に該当することを意味するものではありません。）

新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）については、年内を目途に機能が停止される予定である旨、厚生労働省から周知されていることから、COCOAの新規ダウンロードや活用は不要となります。

▶ 保護者・付添者へのお願い

試験場内への入場者数を制限することから、保護者・付添者の入場は原則として認めません。保護者・付添者の入場が必要な場合には、試験当日3日前までに入試担当へご連絡ください。本学が入場を認めた場合のみ入場可とします。ただし、受験者と同様の感染予防を講じることを条件としますことご了承ください。

▶ 試験場及び本学入学試験に関わる試験監督者等の感染対策

[試験場]

- 試験場における収容定員の半分程度とし、受験者席の間隔を1メートル程度確保します。
- 試験場入口や試験室、トイレ出入口等に消毒用のアルコール製剤を配置します。
- 試験場には、看護師の配置を行います。
- 発熱や咳等の体調不良者、無症状の濃厚接触者（受験者へのお願い（入学試験前）の「発熱・咳等の症状がない無症状の濃厚接触者について」の条件を満たす方）のための別室受験を認めます。
- 試験前日、試験終了後に消毒用アルコール製剤等を使用し、試験場や試験室の机や椅子等の拭き取りを行います。試験開始72時間以内に、試験会場となる施設関係者の感染が判明した場合には、保健所等と連携をして当該感染者が活動した範囲を特定し徹底した消毒等を行います。
- 試験場や試験室の入退場に当たり、行列が生じる箇所がある場合には、動線を示す等混雑を避けるよう対策を行います。
- 面接試験の際には、面接官と受験者との距離を2メートル程度離し、双方の間にはアクリルボードを設置します。また、常時換気を行います。

[本学入学試験に関わる試験監督者等]

- 入学試験に関わる試験監督者等は試験7日前から検温、咳、味覚異常、嗅覚異常の確認を行います。
- 体調不良を訴える試験監督者等がいた場合には試験場への入場をさせず、受験者との接触がないよう対応します。
- 「三つの密」の回避や「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い等の手指衛生」、「換気」をはじめとした基本的な感染症対策の継続等、感染拡大を予防する「新しい生活様式」を実践し、体調管理を徹底します。

▶ 本件に関する問い合わせ先

帝京科学大学 入試・広報課 入試担当

入学試験前

入試担当直通：03-6910-3706 / フリーダイヤル：0120-248-089

受付時間：平日9時～16時、土曜日9時～12時

（日曜日、祝日、年末年始（12月28日（水）～1月4日（水））事務取扱はしません。）

入学試験当日

入試担当直通：03-6910-3706 ＊フリーダイヤルは使用できません。